

1982年9月17日

親愛なる友人一

私達がいかなる理由でニューヨーク禅堂正法寺と、禅スタデイ ソサイエティを放棄したのか、これを説明する為に手紙を書いています。約10年もの間、籍を置いた後、去る事に至った事情は簡単なものではないということをお分かりいただけるであろうと信じます。又この手紙を書く事も簡単な事ではありませんでした。これを読んで頂くことにより、多分貴方は、様々な考えを持たれる事でしょう。当然です。しかし、修行の上で最も大切な事はしっかりした、真の座禅であると言う事。どうかその所を注目してください。

長い間、栄道老師は一部の女弟子達と性的活動を持ち続けて来ました。一部は不成功、又一部は、言い寄って拒絶された場合もありました。独参室で女性に手をかけようと言う試みは珍しいことではありませんでした。1962年、1975年、1979年、そして又今回1982年の、計4度に渡り公表された爆発的事件についての率直真面目な質問に対して、彼は頑強に言い逃れ、又、否定しました。1962年のケースについては隠匿で済ませました。1975年のケースで栄道老師は、禅スタデイ ソサイエティ理事会に退職を約束しました。1979年のケースでは、又又隠匿で逃れ、そして現在、1982年の事件はまだ知名度が低い為、あえて包み隠す必要も無い有様です。幸い今回のケースでは、過去のケースも合わせて近時の雑誌の記事として特別に審議されると思われます。

今年のケースは、ABC-テレビジョン、フリーランス記者が関係しており、栄道老師は聖なる接心の日、彼女が見性を体験したように思い込ませました。後に彼女は他の禅教師と相談した結果これは見性ではないと言う結論に至ったのです。彼女が今になって分かる事ですが、栄道老師が彼女の体験を見性であると証明した訳は、彼女を正法寺へ呼び寄せるための口実で、そこで彼は彼女に性交渉を正面きって強要したのです。

この事件は、16年間真面目に修行を続け、又、1979年の事件のみ消し迄計った一人でもある、理事会会長ジョージ ザウナスの辞職を招く要因になりました。

止む事の無いこれらの事情について栄道老師の師、宗淵老師は意見を問われて“私は栄道老師を憎んではない。私は虚偽、欺きを憎む。私は栄道老師と愛法を非常に愛している、そして哀れに思っている。”と言いました。

これらのセックス問題は、持続的な形態を取り、誤摩化し、詐欺、言い逃れ、時には正真正銘の虐待と言う形で際限なく行われています。(最小限に見積もっても)誤摩化しの一例として、事実、栄道老師と愛法以外の誰も禅スタデイ ソサイエティの経済状態を知るものがないと言う事です。何名かの理事会メンバー達が繰り返し抗議しているにもかかわらず、この状態は続いています。

栄道老師が大菩薩と正法寺の建立と運営に貢献のあった事は、否定出来ません。僧伽についても同様です。

仏法は神秘的なものだと言われています。事実、すべての現象は仏法の現れです。多分そうでしょう。そしてこれをはっきり自覚する為には、修養を積まなければなりません。自ら修行して仏道を会得する前にこれを人に教授する事は間違いです---理解出来る事ですが間違いは間違いです。これが間違いである事は、修行を積む事によって分かって来る筈です。修行を積んで行く上で私達は(自らへ又他への)慈悲心を学び、いかなる欲望も、この欲望も不可思議なる仏法の一現象であると分かっている、行うべからざる事については率直に拒絶する知恵を学びます。これは倫理的判断ではありません。実用的な事なのです。

上記の際限のない実情に基き、もはや、私達の栄道老師を支持しようと言う気持ちは失せました。このように、私達は持論を述べましたが、私達はこれらの事項を明白に理解して欲しいと言う事以外、何一つ要求はありません。どうかしっかりと座禅を続けて下さい。気をつけて、ご自愛下さい。

南無大菩薩

むしん フランク ロシエロ  
5 6 1-4 3 9 6

きげん アダム フィッシャー  
7 2 2-4 3 7 3

追伸 是等の情報を詳しく知りたいと思われる方、又は話し合いたいと思われる方は、どんな事でも気軽にお問い合わせください。